

### 3. 大阪圏の住宅地

※（ ）は前年変動率

京 都 府	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 京都市では、1.7%上昇 (0.6%上昇)。全 11 区で上昇となった。全 11 区のうち、右京区で下落から上昇となり、他の全ての区で上昇が継続し、上昇率は拡大した。</li> <li>○ 京都市以外では、宇治市、城陽市、向日市、長岡京市、京田辺市及び大山崎町で上昇が継続し、大山崎町以外の市で上昇率は拡大した。また、亀岡市及び精華町で横ばいから上昇、八幡市で下落から上昇、久御山町で下落から横ばいとなり、南丹市、木津川市及び井手町などその他の市町では下落が継続しているが、下落率は縮小している。</li> </ul>
大 阪 府	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大阪市では、2.5%上昇 (1.1%上昇)。全 24 区で上昇が継続し、上昇率は拡大した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特に福島区、都島区、天王寺区、東成区、城東区、淀川区等の都心接近性に優れた地域において、住宅需要は旺盛であり、高い上昇率を示している。</li> </ul> </li> <li>○ 堺市では、2.8%上昇 (1.4%上昇)。全 7 区で上昇となった。全 7 区のうち、南区で下落から上昇となり、他の区では上昇が継続し、上昇率は拡大した。</li> <li>○ 北大阪地域では、大阪メトロ御堂筋線、阪急線、JR 線等の駅徒歩圏の交通利便性や生活利便性に優れた地域の住宅需要が堅調であり、豊中市、吹田市、高槻市、茨木市、箕面市をはじめ、7 市町で上昇が継続し、上昇率が拡大した。他の北大阪地域に比べやや利便性の劣る摂津市、豊能町及び能勢町では下落が継続しているものの下落率は縮小した。</li> </ul>

大 阪 府	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 東大阪及び南大阪地域では、交通利便性に優れ割安感のある地域の住宅需要が堅調であり、守口市、寝屋川市、大東市、四條畷市及び交野市をはじめ、11 市で上昇が継続し、上昇率が拡大した。このほか、松原市で上昇率は縮小したものの上昇が継続し、岸和田市及び田尻町で横ばいから上昇となり、八尾市、和泉市、柏原市、門真市及び東大阪市で下落から上昇となった。一方で岬町をはじめとする都心部から離れ利便性に劣るその他の市町村では下落が継続している。</li> </ul>
兵 庫 県	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 神戸市では、2.4%上昇 (1.2%上昇)。全 9 区で上昇となった。全 9 区のうち、長田区で下落から上昇となり、他の全ての区で上昇が継続し、上昇率は拡大した。</li> <li>○ 阪神地域では、猪名川町で下落から横ばいとなり、三田市で下落が継続している。その他の市では、神戸及び大阪の通勤圏であるという高い利便性から、上昇が継続し、宝塚市及び川西市以外の市で上昇率は拡大した。</li> </ul>
奈 良 県	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 奈良市では、1.1%上昇 (0.5%上昇)。大和西大寺駅周辺では、南北自由通路の開通や駅前広場の整備・区画整理事業により利便性が向上しており、学園前駅周辺では利便性・住環境が良好であるなど、近鉄奈良線・同京都線・同けいはんな線などの駅徒歩圏で交通利便性や生活利便性に優れた地域の住宅需要が堅調である。</li> <li>○ 生駒市及び斑鳩町では、上昇が継続し、上昇率は拡大した。また、橿原市及び香芝市で横ばいから上昇、大和郡山市で下落から上昇となった。その他の市町村では、下落が継続している。</li> </ul>

# 市区町村別の状況（大阪圏・住宅地）

